

photopos 31

2016.9.26 ~ 2016.10.20

【神秘学ポエジー～風遊戯 第62集】

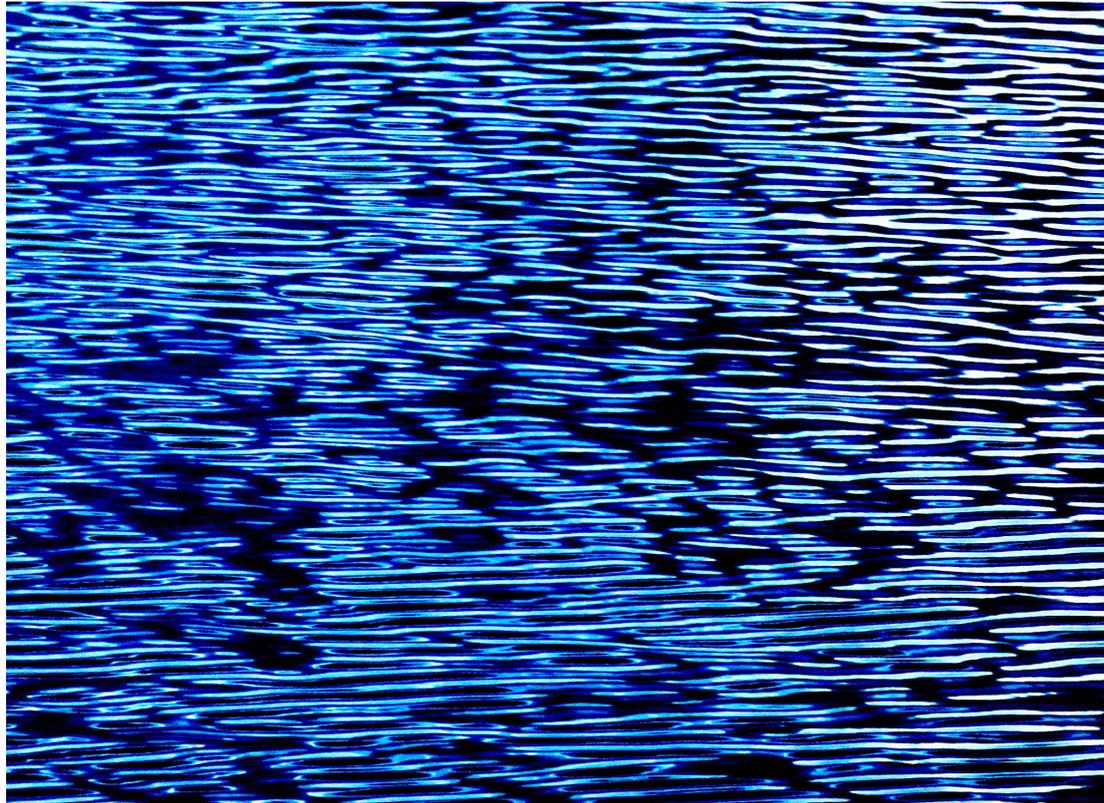
photo ヴァージョン

photopos751-775

神秘学遊戯団

photopos-751

2016.9.26



佇む
黄昏のヴェール

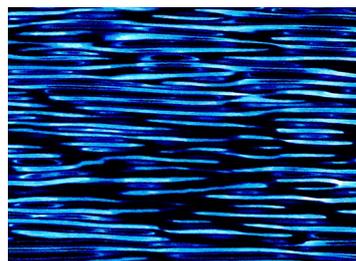
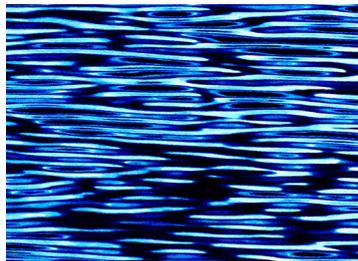
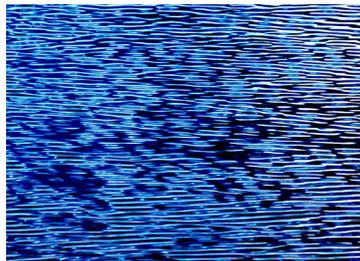
移る
天と地の色

待つ
時の扉

流れる
記憶の川

超える
境域の深み

訪れる
ムーサの声



*高知市・夕暮れの久万川にて

photopos-752

2016.9.27



その花は
だれに

我が迷いに
手向ける花だ

秘儀のため
かつて内なる獣を
屠ったように

その水は
だれに

我が迷いを
流し去る水だ

秘儀のために
かつて渴愛の糸を
断ち切ったように



*高知市・牧野植物園にて

photopos-753

2016.9.28



姿なき
言の葉さわぎ

訪れは
何の兆しぞ

風さそい
うつろう水に

さまようは
心の火影か

うつりゆく
時を焦がして



*高知市・牧野植物園にて

photopos-754

2016.9.29



やれやれのときも
あるだろうさ

とんがっているときも
あるだろう

びっくりのときも
あるものさ

そんなこんなで
つかれたときは

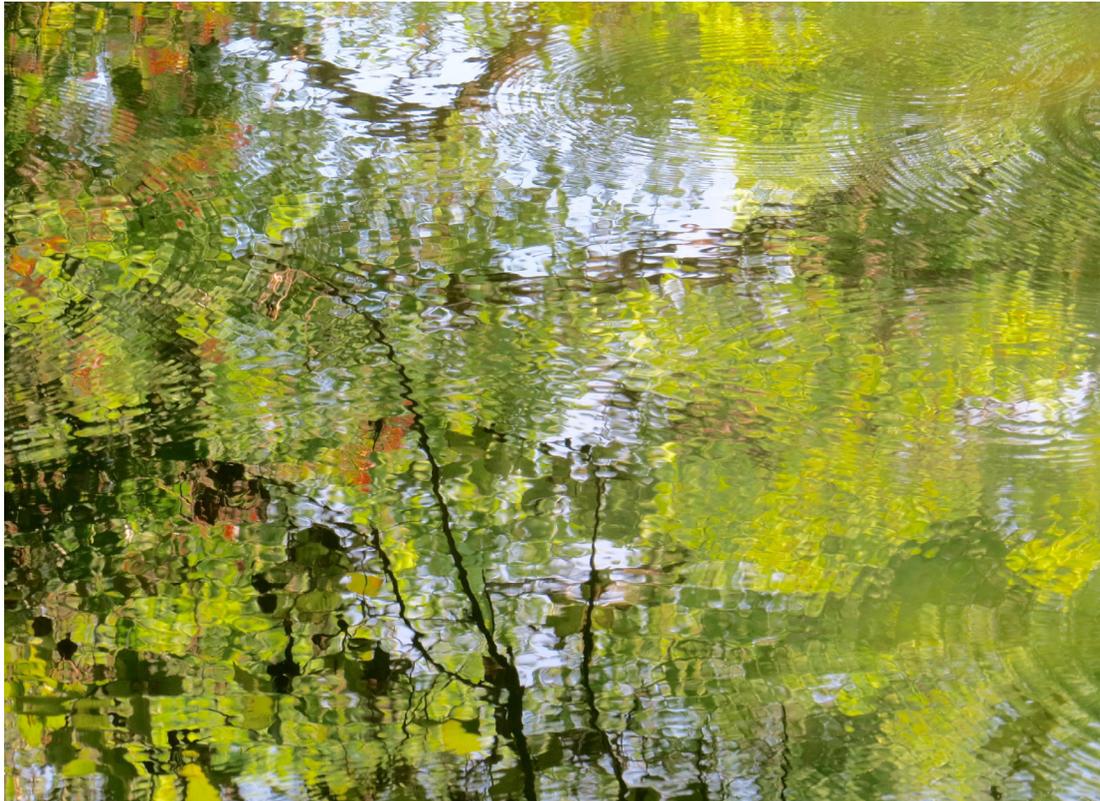
ゆるりゆるりと
まいるのがよろしかろう



*高知市・牧野植物園にて

photopos-755

2016.9.30



さやけきみずの
ながれるおもて
はるけきそらも
うつりてらるら

かぜもしずかに
ふきゆきすぎて
ひかりしずかに
このはをうつす

おもいははるか
ときのまにまに
ゆらりうかんで
あらわれきえる



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-756

2016.10.1



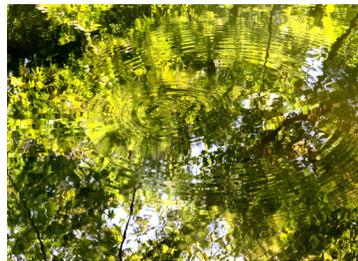
水に
広がる
きみの声

水に
広がる
ぼくの声

声だけが
水のうえで
波紋を描く

ぼくたちはいま
どこにいるのだろう

季節のなかで
不思議の時間が流れる



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-757

2016.10.2



心のなかに
隠されている
歌がある

だれも知らない
じぶんさえ知らない
秘密の歌

夢にみるのは
見えない未来
それとも
見えなくなった過去

時の魔法は
その歌を
紅い紅い実に変える

心のなかの
魔法の紅い実を
季節のなかで
鳴らして歩く

心は何を歌うだろう
時の魔法は秘かに
未来と過去の夢を
見せてくれるだろうか

*高知市・牧野植物園にて

photopos-758

2016.10.3



光のなかを
ゆれているのは
光の糸で編まれた
ゆりかごです

光の糸を
みずからの命から
生み出した蜘蛛は
ゆりかごのなかで
じっと夢見ています

光の糸は
命を捕らえます
そして
光の糸をつくる者は
その命でじぶんの命を支えます



光のなかを
ゆれているのは
命のうつろい
うつろいながら
命は変容してゆきます

*高知市・牧野植物園にて

photopos-759

2016.10.4



そこは
光の奥

うつる
花の影

綾なす
心の襞

ゆらぐ
水の鏡

秘せる
声の色



*高知市・牧野植物園にて

photopos-760

2016.10.5



夜の闇も心の闇も
光の花を映じる紗幕
昼にも星は輝く如く
夜にも花は咲き出でる

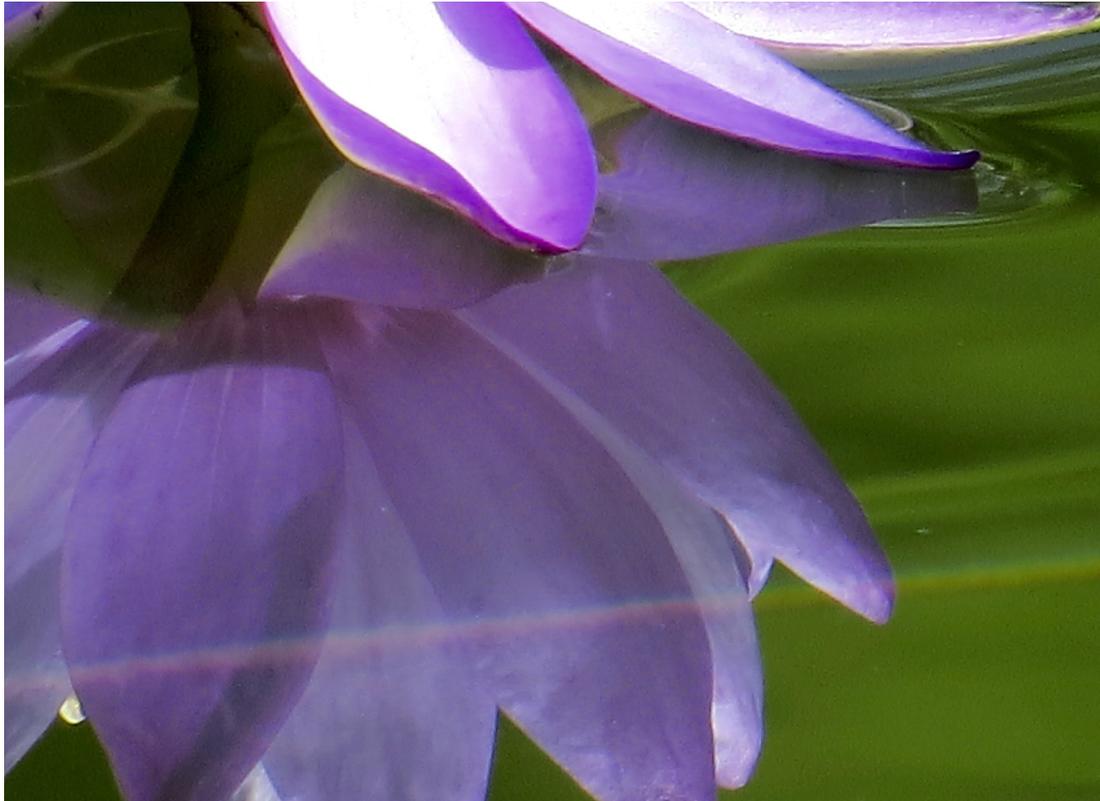
天が地を照らす如く
花は天の色を咲かせ
地が天を支える如く
心の花が星になる



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-761

2016.10.6



花という不思議を如何せん
しばしとどめよその色の綾

水という不思議を如何せん
流れに映せよ心に浮かぶ詩

時という不思議を如何せん
永遠に奏でよ秘せる謎の声



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-762

2016.10.7



見よ！
花の奥
鏡の宴

光よ！
色の奥
時の宴

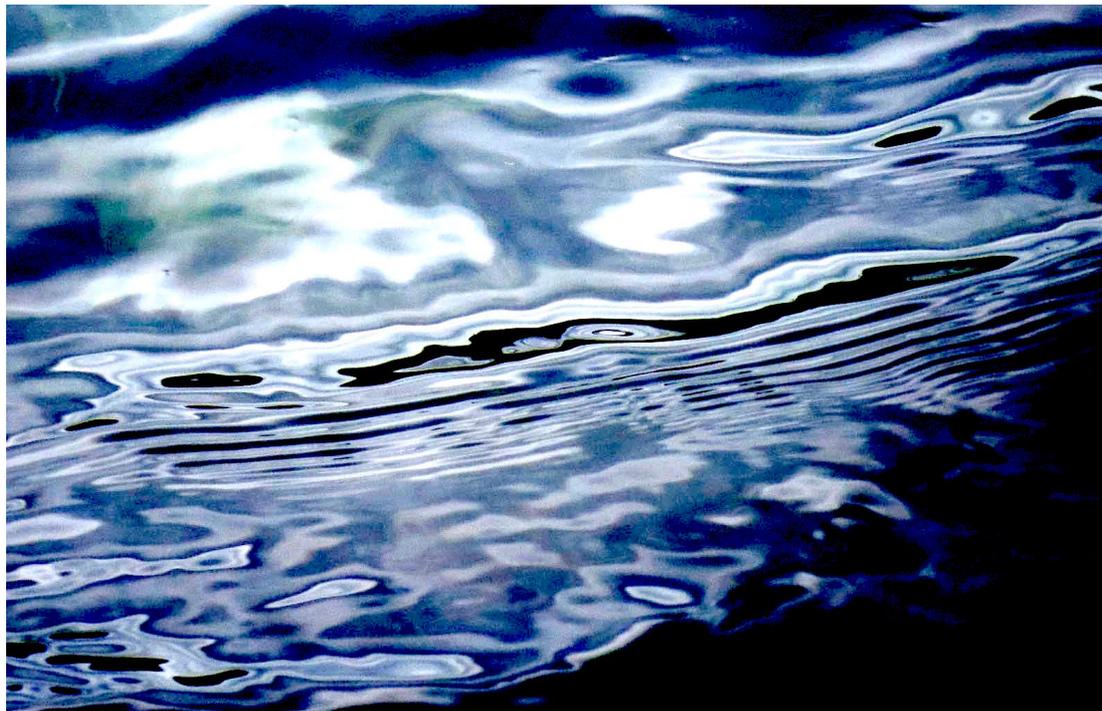
人よ！
心の奥
魂の宴



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-763

2016.10.8



知るの怖いか
見えるの怖いか

目を閉じたまま
不安のままがいいか

鏡に映るじぶんの顔は
たしかに怖かろう

闇はその答えじゃないはずだ
見えるものもその答えじゃないように

不安と恐れが闇を現すのだ
見るのが怖いから闇が脅すのだ

ほんとうに目をあければ
静かに見えてくるだろう

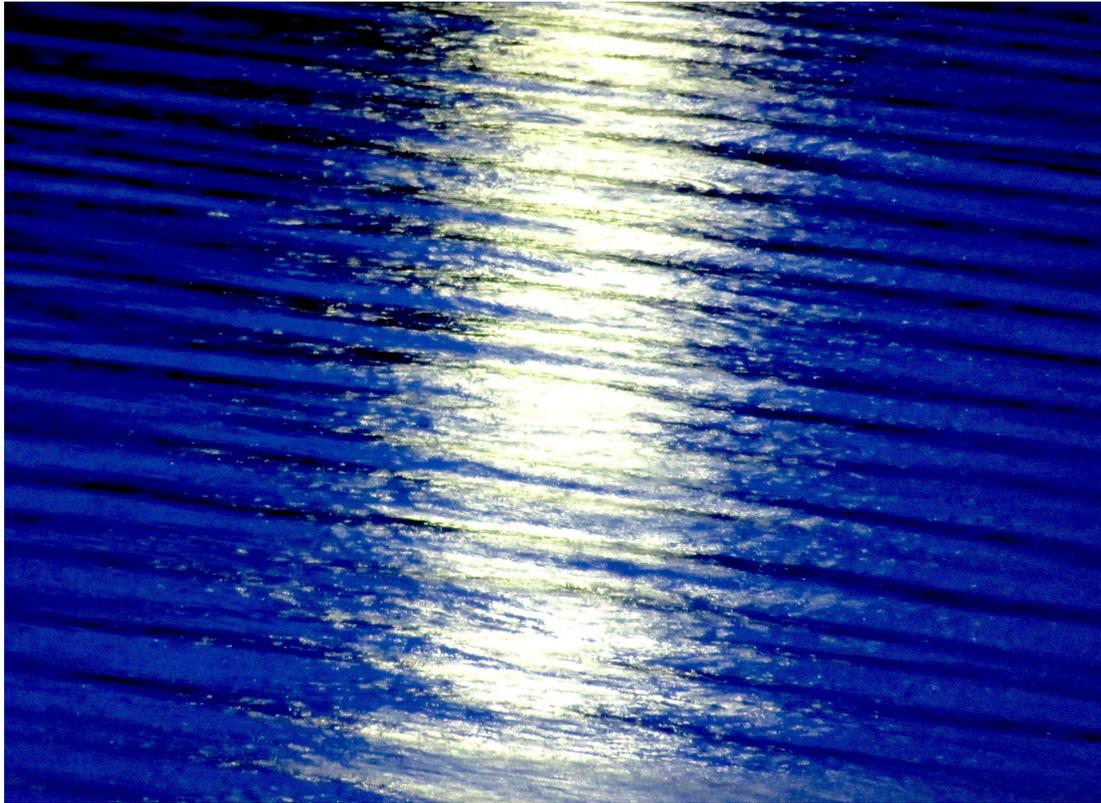
苦しみも悲しみも変容したところに
じぶんのほんとうは見えてくるのだ



*高知市・夕暮れの久万川にて

photopos-764

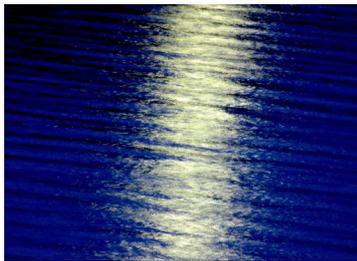
2016.10.9



知ることはてに
静寂の詩を聞くか

言の葉の彼方より
ものの響くごとく

生きる時はてに
光の響きを聴くか



* 高知市・夕暮れの久万川にて

photopos-765

2016.10.10



光の奥へ
彷徨う心

はては はずこ
いまは はてなし

私の奥へ
彷徨う心

われは はずこ
ゆめを めぐるか

時の奥へ
彷徨う心

おもい はるか
ことば なくして



*高知市・夕暮れの久万川にて

photopos-766

2016.10.11



不意に訪れる
それと知れぬ
悲しみに似て

流れるごとく
映るがごとく
笑うがごとく

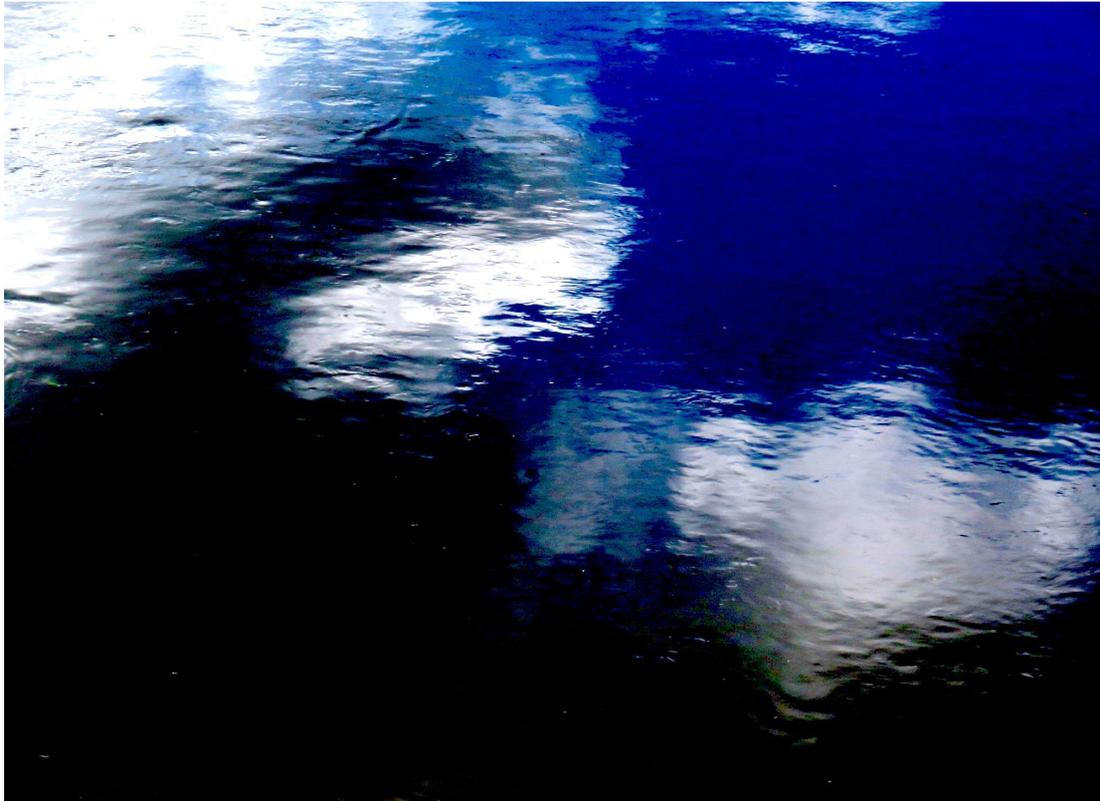
記憶の奥処で
奏でられる色
不思議の面影



*高知市・夕暮れの久万川にて

photopos-767

2016.10.12



*高知市・朝の久万川にて

光あれ！
すると
影もあった

光とともに歩むとき
影はともに歩んだ

おもてあれ！
すると
うらてもあった

おもてを映すとき
うらても虚に映った

生よ！
呼ぶと
死もまた現れた

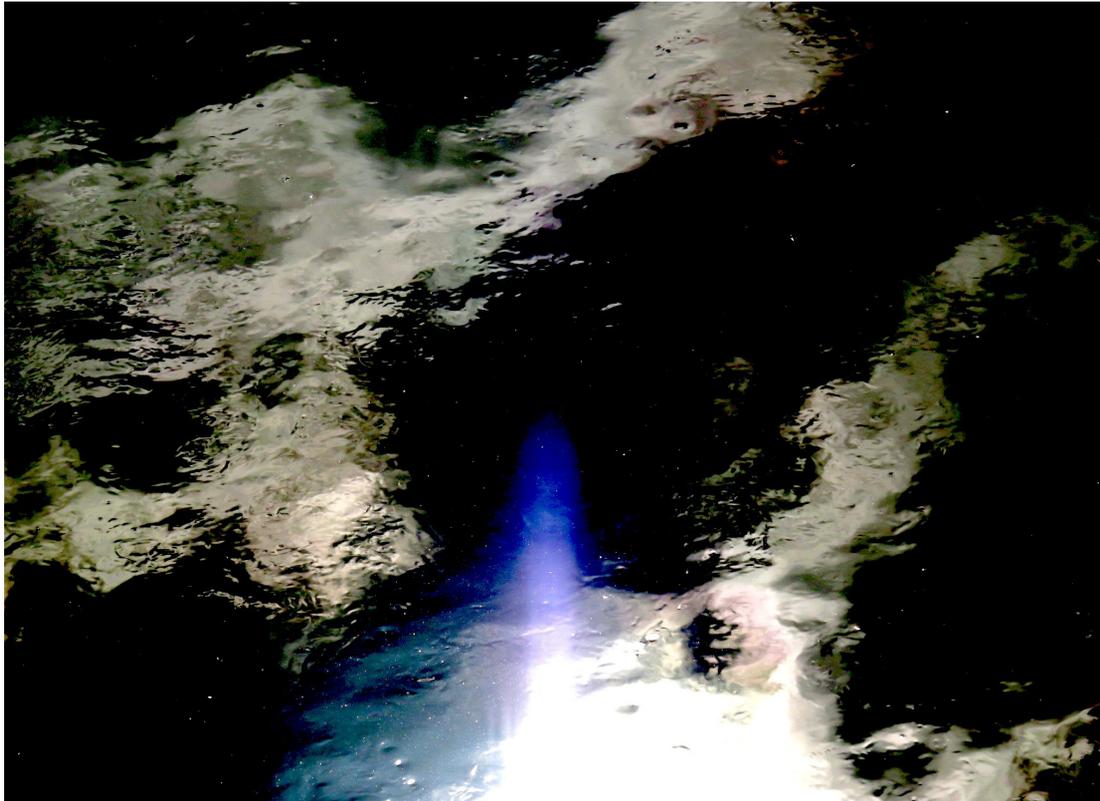
生きるとき
死もともに歩んだ

イデアよ！
呼ぶと
ヴェルブムもまた現れた

イデアは
ヴェルヴムとともに
ロゴスを歌った

photopos-768

2016.10.13



魂の星雲を
旅する者よ

握一点
開無限

遙か天空は
我が内に

無限の彼方を
見る者よ

我がおもては
我がうらてに

瞬きのあいだに
果てなき生と死を生きよ



*高知市・朝の久万川にて

photopos-769

2016.10.14



しるせども
しるせども
しるすほどに

わがおもひ
みだれ
みだれて

ぬばたまの
よるのゆめじへ
とけてゆくかな



*高知市・夜の久万川にて

photopos-770

2016.10.15



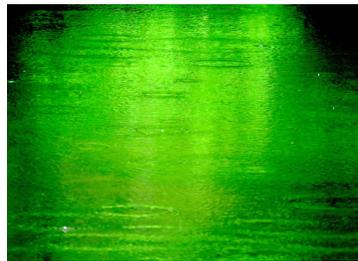
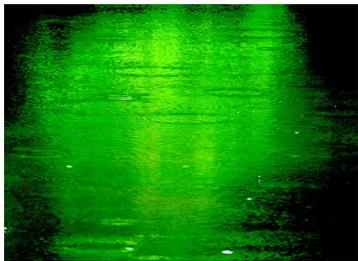
寂寞と
深くみなもに
雨のふる

静まりし
鏡のおもてに
吠えかかる

闇の叫びか
おのが身の
姿うつして

*蕪村

「おのが身の 闇より吠えて 夜半の秋」



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-771

2016.10.16



張りつめた
白きペルソナのごと
感官の弦を
つま弾くものあり

放たれた
歌うロゴスのごと
思念の声を
響かせるものあり

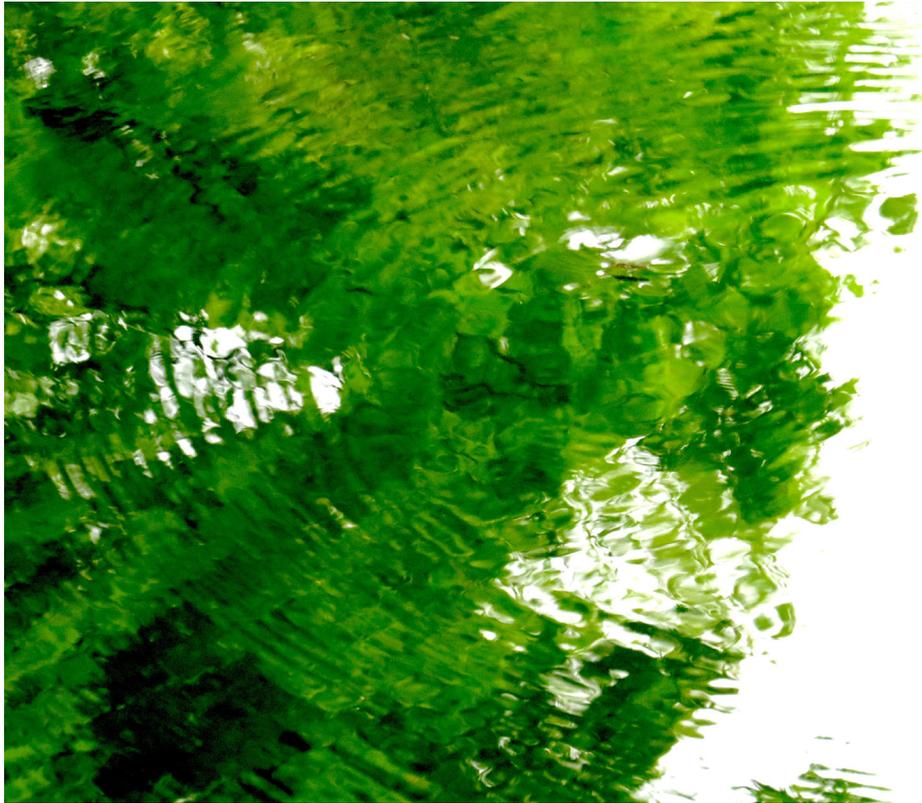
汝はたれそ
緑の影の
さざめきを歌うか
秘められた言の葉に寄せて



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-772

2016.10.17



天から与えられる
ひとしずくのロゴスのように
静かに訪れるものがある

喉を潤す者は幸いである
ロゴスの水とともに
沈黙のコトバを紡いでゆくだろう

地において芽吹く
一粒の種のように
静かに待つものがある

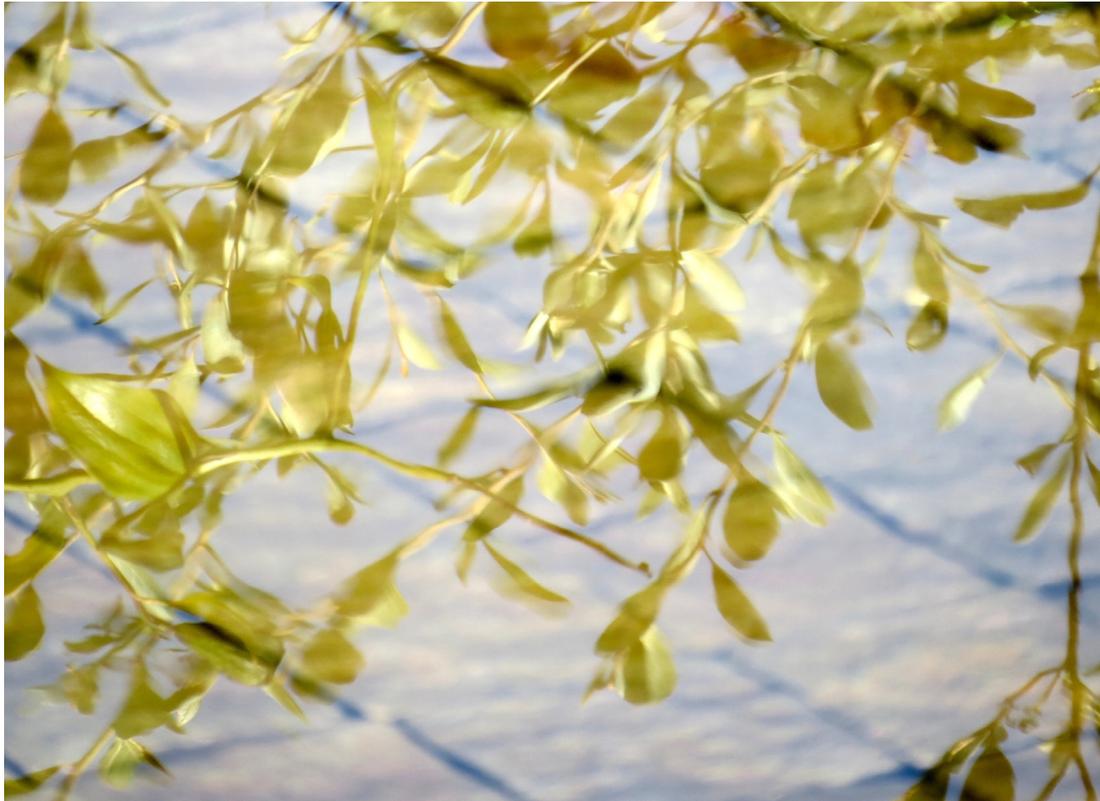
問い続ける者は幸いである
見えぬ力とともに
光の華を育ててゆくだろう



*高知県北川村・モネの庭にて

photopos-773

2016.10.18



名なきものよ
名なきゆえの
とらわれなき姿を遊べ

花なきものよ
花なきゆえの
色の香にその姿を託せ

知られぬものよ
知られぬがゆえの
無の底からの声を聴け



*高知市・牧野植物園にて

photopos-774

2016.10.19



ひとつ知るためには
ひとつ負わねばならない

負うことで
知は智にかわる

ひとつ感じるためには
ひとつ与えねばならない

与えることで
感官は解き放たれる

ひとつ超えるためには
ひとつ諦めねばならない

諦めることで
真実のヴェールが開かれる



*高知市・牧野植物園にて

photopos-775

2016.10.20



るらるらおどる
あなたとわたし

あなたのなかに
わたしがいるよ

わたしのなかに
あなたがいるよ

るらるらゆれる
わたしとあなた



*高知市・牧野植物園にて